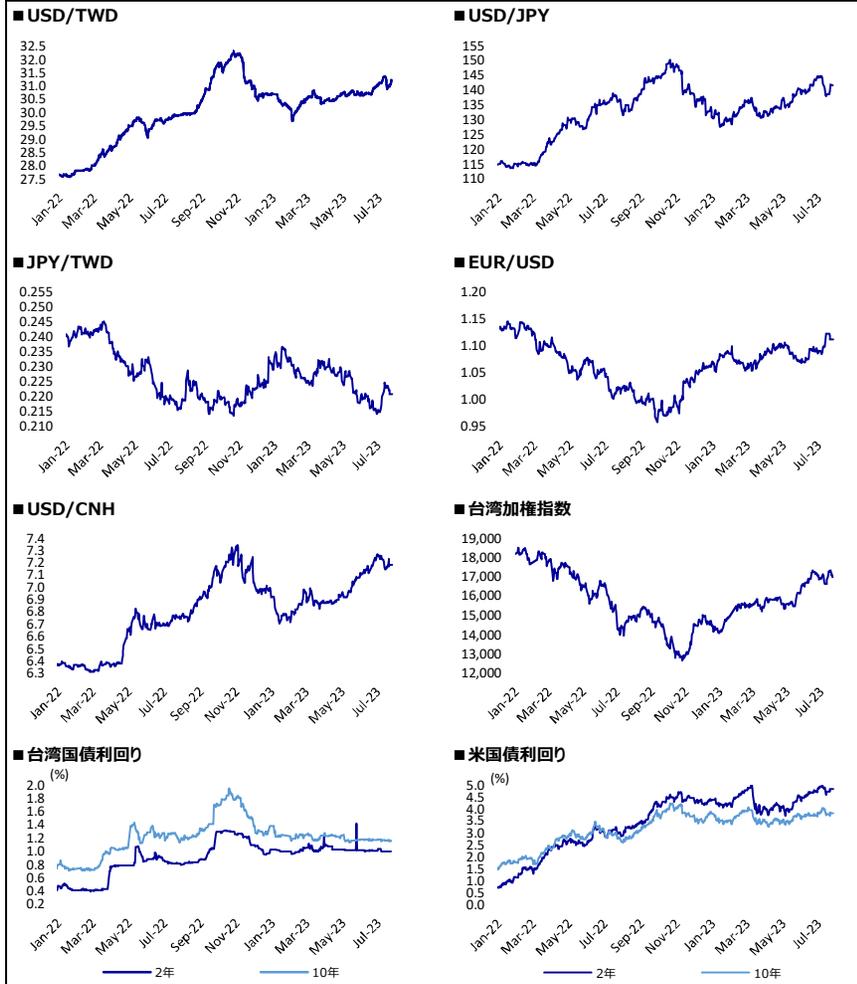


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/17は30.930でオープン後、ドルが買い戻される流れに加え、中国のGDPが予想を下回り人民元安の影響を受け、31台に乗せた。7/18は30.95台まで戻すも台湾株が下落に転じると台湾ドルは売られ、31ちよどを挟み、もみ合い推移。7/19は台湾企業の配当金を受け取った外国人投資家の台湾ドル売り等から31.08付近まで上昇。7/20も配当金の海外への送金から台湾ドルが売られると、一時31.1台に乗せた。7/21は半導体製造業大手が業績見込みを下方修正したことを受けて台湾株が急落すると、台湾ドル売りが優勢に。一時31.246をつけ、最終的に先週比1.1%ドル高台湾ドル安の31.240で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は381.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は日銀の政策修正期待が後退し、上昇。週初7/17は138.60でオープン後、東京休場の中、138円台半ばでの推移していたが、米7月ニューヨーク連銀製造業景気指数の予想より良好な結果を受け、ドル買いが優勢となり、139円台半ばまで上昇。しかし、一巡後は138円台に戻した。7/18は軟調な日本株を横目に138円台半ばへ下落。また、米6月小売売上高が市場予想を下回ると、米金利低下につられてドルが売られ、一時137.69をつけた。その後は植田日銀総裁のハト派な発言を受けて、138円台後半まで戻した。7/19は日銀の政策修正期待の後退による円の買い戻しや、株が上昇する中、リスクオンの流れもあり、139円台半ばまで上昇するも節目の140円を前に跳ね返された。7/20は日経平均が下落するとリスク回避の円買いもあり、139円台前半まで下落したが、米新規失業保険申請件数が予想を下回ったこともあり、米金利が上昇すると140円台半ばまで上昇。7/21は日銀関係者が現時点でYCC修正の必要性は乏しいと見ているとの観測報道が伝わり、日銀による政策修正観測が後退すると、円売りが優勢となり141.95円まで急伸。その後も高値圏を維持し、最終的に先週比2.2%ドル安円高の141.85で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.100-31.300
今週はFOMCを控えている。利上げ打ち止め期待が高まれば、株高台湾ドル高の流れとなるが、タカ派なスタンスを維持することになった場合は、ドル高の可能性もあるため、内容を注視したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：141.00-144.00
今週はFOMC、BOJと中銀の金融政策発表を控えているが、足許は日銀の政策修正期待が後退したことにより、ドル円は買い戻されている。日銀のハト派スタンスが再確認できれば、引き続きドルは買い戻されるであろう。

今週の予定

7/24 (MON)	米7月製造業・サービス業PMI
7/25 (TUE)	米7月消費者信頼感指数
7/26 (WED)	米6月新築住宅販売、FOMC
7/27 (THU)	ECB政策理事会、米6月耐久財受注
7/28 (FRI)	台湾Q2GDP、日銀金融政策決定会合、米6月個人所得・支出

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。